全日本私塾教育ネットワーク

私塾ネット広報

http://www.shijuku.net

第45号(平成26年２月号)

Photo by Joh Tadamichi

澪標 ＜通行する舟に通りやすい深い水脈を知らせるために立てた杭＞

全日本私塾教育ネットワーク

センター事務局　仲野十和田
〒173-0005　東京都板橋区仲宿55-8-205　ナカジュク内
TEL:03-3963-5572　FAX:03-3963-2529
Mail:center-office@shijyuku.net

理 事 長　湯口　兼司
TEL0875-72-3262
広報部長　大住　明敬
TEL048-957-8608

理事長　コラム

理事長　湯口 兼司（香川県 ・湯口塾）

みなさん、明けましておめでとうございます！　本年もどうぞ宜しくお願いいたします。さて昨年12月8日には山口県岩国市に於きまして、私塾ネット四国エリア主催、中国エリア共催にて秋の研修会を開催いたしました。谷村会長は石巻での『出張寺子屋』と重なり残念ながら欠席されましたが、山口恭弘名誉会長を始めとして、センターからは鈴木副会長、仲野事務局長、田中研修部長、監物会計部長、大住広報部長、そして渡辺ジュニアの会会長などそうそうたるメンバーが参加してくれました。さらに、佐藤将紀中国エリア代表など70名を超える参加者で活発な研修となり、あちこちで楽しそうな交流の輪が出来ていました。岩国は名門、芸城学院のお膝元で、城忠道先生始め西岩国校の熊野代表、真弓先生、芸城学院予備校の加納代表から心のこもった『おもてなし』をして頂きました。お忙しい時期であるにもかかわらず、私たちの送迎、教室移動、そして案内と職員の方々の分担がきちっと決められていて、心地よいもてなしを受けました。また教室での生徒たちの雰囲気、表情がとても活き活きしていて、爽やかな塾生たちが印象的でもありました。芸城流『おもてなし』は研修会だけでなく、岩国の夕べ『Mystery　Joh』へと続き、懇親会まで徹底したものでした。二次会後も中・四国の交流の輪は夜遅くまで賑わっていました。準備をして頂いた四国の会員の方々はもちろんのこと、参加して頂いたみなさんに心から感謝いたします。余談ですが、何人かの先生方は芸城の先生方も含め一睡もしなかったようで、朝になって爆睡している方も見かけました。

さてこれから2月、3月は入試、そして新年度の生徒募集など、塾としては一番忙しい時期に入ります。みなさん方には健康に留意して、ぜひ頑張っていただきたいと考えます。また教育関連では本格的に英語教育が小学校三年生から導入されることが、昨年発表されました。みなさん方の塾でも、何らかの形で今までと違ったやり方を検討されているところも多いと思います。私塾ネットの中でチームを作り、小学生を対象とした英語教育の方法を研究し、お互いに研鑽できたらとも考えています。さらに親しまれ、信頼される塾を目指して今年も頑張りましょう！

私塾ネット　全国塾長・職員研修大会
2014年４月13日、東京（アルカディア市ヶ谷）での開催が決定

昨年は湯口理事長のお膝元香川県丸亀市で開催した全国研修大会だが、第12回大会にあたる今年は、東京に会場を移し、４月13日に開催することが決まった。

主テーマは「まずは行動する。志を携えて。」というもので、記念講演にはアジア各地で１５年、１万人以上の命を救った小児外科医、吉岡秀人先生をお迎えする。

日時　2014年4月13日（日）
会場　アルカディア市ヶ谷（私学会館）
プログラム
第一部　研修大会　開場　午後１時30分
大会　午後２時～５時50分
①「今年どうする？」　14：00～15：10
オープニング・ご挨拶・祝辞・エリア近況報告
・アイスブレイク
②記念講演　15：30～17：10
講演:吉岡 秀人氏「まずは行動する。志を携えて。」
③「再び、今年どうする？」　17：10～17：50

第二部　懇親会　午後６時15分～８時30分
・主催者挨拶・乾杯・祝辞・テーブルスピーチ
・エリア報告・謝辞
詳細は別紙「第12回　全国塾長・職員研修大会」の案内書をご覧ください。３月22日までに参加申込みをお願いします。

アルカディア市ヶ谷・私学会館
東京都千代田区九段北4-2-25　Tel03-3261-9921
［アクセス］
● JR中央線　市ヶ谷駅　●地下鉄・東京メトロ　有楽町線・南北線　市ヶ谷駅　A1出口　●都営地下鉄　新宿線　市ヶ谷駅　A1またはA4出口　いずれも　徒歩2分

研修担当の田中宏道です。今回は、アジアで１５年、１万人以上の命を救った小児外科医、吉岡秀人先生をお迎えしての第１２回私塾ネット全国塾長・職員研修大会です。

人口減少とともに国内産業が衰退していく日本。昨日あるような今日はない。今日あるように明日はない。半歩先を見て、いま何を行動すれば良いのか、絶えず考えながら生きていく必要のある日本の未来。

ただ安定だけを望んでいても安定が手に入る世の中ではありません。そんな日本の未来に生きる子どもたち。その子どもたちに一番近い我々塾人は、いったい何を子どもたちに伝え、どのように子どもたちを育てればよいのか？　さまざまな研修や勉強会、人や本との出会いを通して、まず我々が行動するきっかけを掴む。そんな思いが強くなる昨今です。

今回お迎えする、日本各地や世界で感動を与えている吉岡秀人先生のご講演が、全国の学習塾、私学、協力企業のみなさまの「行動」の契機となることを願ってやみません。今回の研修大会にも、ぜひご参加ください。お待ちしております。

今回の記念講演は、吉岡先生のメッセージを子どもたち、そして親御さんたちに直接伝えるために、特別に塾生や保護者のご参加も歓迎いたします。生徒・保護者向けのチラシも作成いたします。ぜひ塾内でもお誘いください。

以下は、吉岡秀人先生のお考えの一部です。参考にしてください。

Infinity Ventures Summit（インフィニティ・ベンチャーズ・サミット）2013　夏の講演より。

今日の努力は、明日の成果にはならない。すぐには現れない。今日やったことが血肉となるにはタイムラグがある。今からやっておかないと、３年後の成果はないかもしれない。いまやっておかないと、熟成も発酵もない。僕も10代の頃から、40代頃に成果が出るはずと思って頑張ってきた。今のうちから、自分がやるべきと思うことは全部やってほしい。躊躇せずに。

大切なことは、アウトプットすること。アウトプットしながら行動していかないと人生変わらない。日本の教育は、インプットだけ行っていることが問題。セミナーに行ったり、何かを学ぶことは貯金するような作業。嬉しいかもしれないけど、人生は変わってない。必ずアウトプットが必要。今日のセミナーも、どうアウトプットするかを考えて聞いてほしい。

30年前の自分は、なんてことのないただの若者だった。そんな自分が、今では世界で医療活動に従事している。大きいか小さいかは重要じゃない。ただし、前に進みつつ、アウトプットしていくこと。

◆　吉岡　秀人（よしおか　ひでと）先生

特定非営利活動法人ジャパンハート代表、医師

●大阪府吹田市出身。大分大学医学部卒。大学卒業後、大阪、神奈川の救急病院などで勤務の後、1995年から1997年までミャンマーで活動。 その後、岡山病院小児外科、川崎医科大学小児外科講師などを経て、2003年から再びミャンマーで医療活動を再開。2004年、国際医療ボランティア団体「ジャパンハート」を設立。ミャンマー、カンボジア、ラオス、日本で医療支援活動を行う。

●海外：実際の医療活動、視覚障害者自立支援活動、エイズや貧困で人身売買の危険にさらされている子どもたちの保護と養育施設「DreamTrain」の運営、災害孤児の養育支援、学校での保健・衛生教育事業、医師・看護師育成事業などを行う。

●国内：医療者の不足する離島や僻地に看護師を派遣する事業、小児ガンの子どもや家族を旅行をはじめとする様々な企画を通して元気をもらってもらうスマイルスマイルプロジェクトなどを行っている。

●2011年、3月に発生した東日本大震災では緊急医療支援活動を行い、500名余りの医療者やボランティアを被災地に派遣した。12月、宮城県石巻市に「NPO法人ジャパンハートこども・内科クリニック」を開業し、現在でも医療支援活動を行っている。

●ミャンマーで幼い命を救い続け、年間約2,000件の手術を行い、2012年現在、その数は1万人を超えている。日本帰国時には、依頼を受け講演会を多数行う。

●著書

「飛べない鳥たちへ―無償無給の国際医療ボランティア「ジャパンハート」の挑戦」（風媒社、2009年）

「死にゆく子どもを救え―途上国医療現場の日記」（冨山房インターナショナル、2009年）

「命を燃やせ～いま、世界はあなたの勇気を待っている」（講談社、2012年）

「1度きりの人生だから絶対に後悔したくない！ だけど、まわりの目が怖くて、なかなか動けない。そんな20代の君が1歩を踏み出す50のコトバ」（すばる舎リンゲージ、2012年）

（Photos：ジャパンハートHpより）

第１回日本民間教育大賞発表　主催：日本民間教育大賞選定会議
「民間教育最高功労賞」を佐藤勇治先生・池田弘先生が受賞される

平成26年1月23日、東京神保町の学士会館で第１回日本民間教育大賞の表彰式が行われた。この賞は株式会社塾と教育社が主管し、日本民間教育大賞選定会議が主催するものだ。選定会議委員は別表の通りのメンバー、学習塾業界広域10団体の代表者で構成されている。私塾ネットからは湯口理事長が委員の一人に名を連ねている。

同賞の意義は、「民間教育業界とりわけ学習塾業界の発展に寄与された方々に深く感謝申し上げるとともに、そうした功労者の功績を顕彰することを通じて民間教育が果たしてきた役割を広く世に知らしめるために創設した」としている。

公募された候補者の審査の結果、第１回の受賞は以下の通りとなった。

最高功労賞―塾教育の発展に貢献された満７５歳以上の業界関係者

・池田　弘氏
池田教育ゼミナール学園長（私塾ネット名誉会員）

・「学習塾百年の歴史・学習塾団体五十年史」編集委員会　佐藤勇治氏（私塾ネット会員）、中嶋浩一氏、菅谷友豊香氏

・浅間　政彦氏　NPO法人ゆめネット副理事長
・鳥海　十児氏　朝日学園グループ学園長

特別功労賞―塾教育の発展に貢献された故人

・西坂　眞美氏　寺子屋グループ前代表

表彰式に先立ち開催された新春特別セミナーでは、「2014年の学習塾業界」と題する講演が行われた。講演者は業界を代表するお二人、永瀬昭幸氏（株式会社ナガセ代表）、佐々木喜一氏（成基コミュニティグループ代表・教育再生会議有識者メンバー）の熱のこもった講演には、200名近くの出席者を数え立すいの余地のない盛況ぶりであった。

第二部の教育大賞受賞式では、受賞者と選定会議委員が壇上に整列し、厳かにして和やかな表彰式が執り行われた。私塾ネットからは湯口理事長の代行として谷村会長が登壇した。

第三部は祝賀会および新春賀詞交歓会である。学士会館のクラシックな宴会場には、受賞者の皆さんを囲む形で立食式の宴席が設けられ、学校、企業関係者を交えた懇親会が開催された。

日本民間教育大賞選定会議委員

的場　一成	学習塾公開企業協議会会長
後田多純寿	学習塾全国連合協議会全国会長
豊川　正弘	私塾協議会会長
坂田　義勝	私塾協同組合連合会理事長
安藤　大作	全国学習塾協会会長
森　貞孝	全国学習塾協同組合理事長
田中　敏勝	全国ボランティアの会理事長
湯口　兼司	全日本私塾教育ネットワーク理事長
増澤　空	日本青少年育成協会会長
森本　一	民間教育連盟会長
顧問　大島九州男	参議院議員
顧問　渡辺美知太郎	参議院議員

壇上に勢揃いされた栄誉ある第1回受賞者の皆さん。右から最高功労賞の浅間、鳥海、中嶋、佐藤、菅谷氏そして左端は池田氏代理。左からお2人目は特別功労賞の西坂氏夫人。

最高功労賞受賞の「学習塾百年の歴史・学習塾団体五十年史」編集委員会の皆さん。佐藤勇治先生を真ん中に、右が中嶋浩一一橋大学名誉教授、左に菅谷友豊香慶応受験会代表。
6年の歳月を費やし、160名にのぼる執筆者を得て、塾と塾団体の歴史を克明に後世に残す大著を完成させた功績を顕彰するものである。私塾ネットとしては同書の編集に関与した者も多く、今回の受賞をおおいに喜びたいものだ。

エリア通信

エリア東北　扇野 昭弘
（青森県・学習塾ＴＲＭ登竜門）

初詣ランしました。

１月１日㈬、朝１０時集合し、渡部先生・渡部先生の義理の弟・ウルトラ女子・私扇野４名で、５か所の神社の全１２キロを走って、初詣ランをしたことを報告致します。

元旦は、大きめの雪が降り注ぎ、本当に今日走るのかと不安の中のスタートでした。最初は、市内で最も大きな善知鳥神社の参拝です。参拝客は年々減っているような気がします。自家用車で来る者、タクシーで来る者、歩いて来る者、いろいろでしたが、走ってきたのは私たちだけのように思えました。走ることだけ考えていましたので、何を祈願するか考えていませんでしたが、とりあえず家内安全・商売繁盛・受験生の全員合格を祈願しました。渡部先生の祈願は聞いていませんが、世界平和的なもっと大きなことを祈願したのだと思います。

次は２番目に混雑が予想される神社と寺です。駐車場がなく混雑していましたので、走って来て本当に良かったと思った瞬間でした。私のお賽銭は、生徒たちが１００点取れるよう１００円と勝手に決めていますが、渡部先生はもっと入れているものと思います。

そろそろ５キロを超え、会話も少なくなり、冬期講習会で忙しくほとんど走れていない足はぶるぶると左右に揺れ始め、最後まで走れるか不安も感じ始めてきました。そうだ、今年も元気に１００キロマラソンを走れるようお願いしなければと後半の３か所はそればかりをお願いしたように思います。渡部先生の祈願は地球規模になっていると思うのに、私はだんだん狭くなって、最後は自分のことだけかと嘆くばかりでした。

最初は融雪の施された歩道でしたが、後半はかつてここに歩道があったであろうと思われるところを走りました。渡部先生と私はスノーターサーと言われる雪道専用のシューズですが、渡部先生の義理の弟さんは普通の長靴です。水たまり、雪だまりを好んで走っていましたが、深さを誤り転んでいました。渡部先生は先頭で引っ張ってくれていましたのでわからなかったようですが、私は休めると思い待っていました。少し恩を売ることも考えて、しかし、声のかけ方がまずかったです。「調子に乗りすぎましたね！」、走ることで、頭が回らない！

とても残念なことです。

前列右が渡部さん、イエーのポーズは筆者

何とか最後の初詣も無事終了し、写真撮影です。後ろに見える恵比寿様が、渡部先生の義理の弟さん長靴ランナーです。１月２日は新年会をやることを約束し別れました。

午後の２時からは正月特訓です、気合を入れて頑張りました。

今更ながら、今年１年も皆様のご健康とご発展を心からお祈り致しております。

エリア関東　広報部　中村直人
（神奈川県・中村学院）

SRJみらいセミナー参加報告

11月4日に、第一学院高等学校の四谷キャンパスにて、SRJの意欲喚起講座みらいを採用している学習塾対象のセミナーがありました。テーマは、面接・集団討論などの受験制度の改革とともに、重要視される「人間力」、受験に合格するだけでなく、生徒たちが「生き抜く力」を身につけるためのヒントを伝えるセミナー、ということです。講演者は4人。(1)日本青少年キャリア教育協会事務局長の野口久弘先生の「進路決定へ向け子どもとの関わり方」キャリアカウンセリングの考え方からのお話。(2)Global Gate Instituteの錦織彰先生の「私塾から変革する新しい教育」として反転学習など最新の授業法の紹介。(3)いぶき学院学院長鈴木正之先生の「子どもたちの『人間成長』のために、学習塾のできること」塾を始めるきっかけから、その目標とするところを熱く語る。(4)毎日総合研究所代表取締役社長の出川研先生の「情報やモノがあふれる時代　子どもたちに本当に必要な教育とは」ということで、ニュース時事能力検定や子ども新聞を使った教育現場での時事問題の指導の仕方、などが当日話されました。

その後は、意欲喚起講座みらいを使っている塾の討論会でしたが、あまり皆さん発言されず、結構な数の参加塾はあったものの、いまひとつ各塾の取り組み具合を知ることができなかったのが残念でした。申し合わせたわけではないのですが、ネットでは講演した鈴木先生以下・松浦先生・蓮先生・大庭先生などがお見えになっていました。今回のセミナーでの小さな収穫は、鈴木先生の講演に興味を持たれた大井町近くの学習塾さん2軒とセミナー後に、お話しできたことです。一応会報を差し上げてネットに勧誘しておきました。まずは、OKKに入っていただければ良いなあ、と思いました。

セミナー後は、懇親会ということでしたが、鈴木先生以外の講演者全員と参加塾もほとんど帰られ、SRJと吉備さんの社員さん及び、ネットの鈴木・松浦・中村の3人と他塾女性1名で、近くの居酒屋に行きました。本来の「みらい」の情報交換ではなく、いつもお世話になっている社員さんとの親睦会になってしまいました。

皆さんと駅近くでお別れしたあと、鈴木・松浦・中

村の3人は、どういうわけかいま来た道をもどり、また先ほどの飲み屋街のほうに消えていったことは、だれも知らない。

長江先生宅訪問記　第４回

11月20日11時半に長江先生のお宅に行く。着いて玄関外で鈴木先生と会う。鈴木先生、車が順調で11時ごろついたそうで、郵便局へ行ったり一仕事して来たようす。ちょうど先生のリハビリが終わったところに、お邪魔しました。長江先生によれば、体を伸ばしたりするリハビリでは、女性の療養士さんのほうが、痛いといっても容赦なくやってくださるそうで、男性の療養士より良いということでした。単に若い女性にいじめてもらえる点が良いのではという声が、ちらほら。先生は、3ヶ月ほど前より、お元気で食欲もあるようでした。また、杖のような補助具を使っての歩行も、以前より左足が動いている感じがしました。少しずつでもよくなってくださるといいですね。歩行では、段差が怖いとのこと。倒れると自分では、まだ起きられないからだそうです。

夏の研修旅行から私学情報交換会、OKKなど11月までの活動の報告をしました。またネット関東の次期の人事や各団体との交流について、また登校拒否の生徒についての対応、実際の体験談や最近のインターネットでのLINEの依存症やLINEを使ってのイジメなど最近の生徒のスマホ使用での問題点などを話し合いました。

このところ長江先生のご子息の広紀さんがネットの活動に積極的に参加されているのが、心強い

長江先生宅訪問記　第５回

1月24日11時少し前に長江先生のお宅に伺いました。挨拶して少し話をしているうちに、定刻11時に鈴木先生が登場。近況を話しているうちに、広紀さんが、新しいご自宅に初めての渡辺浩先生を駅に迎えに行く。先生は、血色良くよく笑われ、また一段と調子が良くなられているようです。まずは、今日はこの3人で近況報告再開。教材展や先日の定例会での気の研修会でのはなし（講師の松下元之先生は渡辺先生のかかりつけの漢方の先生です。）、渡辺先生の心の病気体験談。最近のネットで腎臓の調子の悪いお仲間の話から、耳鳴りカルテット？だんだんとS先生と某先生とのどっちが体の調子が悪いかのすごい病気自慢の話に（早く医者に行ってしっかり養生しなさいよ！）、ストレスから本当に体や心に変調をきたす体験談（怖いです。）。まあ、リハビリに励んでいる人のところで、病気の話ばかりもねえ。

実際大部分は、まじめな話をしました。前日、鈴木先生が行かれた、塾と教育社主催の「日本民間教育大賞」の話題。その他たっぷり。渡辺先生は、若い世代をよくまとめておられる印象を持ちました。お話をしているうちに、あっという間に時間がたち、例のリハビリの若い先生がいらっしゃったので、写真を撮ってお開きとなりました。

先生は、いままでずっとオールフリー生活（ノンアルコールビール）でしたが、最近はときどき、リアルなビール３５０ml１本を飲まれているようで、先生とお酒を飲んで“うましか話”をするのを無上の喜びとしている鈴木先生にとっては、朗報でした。

エリア関東第72回定例会＆第53回定例研修会

平成26年1月16日(木)、エリア関東の月例定例会と定例研修会が開催された。会場はお茶ノ水の中央大学駿河台記念会の会議室。
今回の定例研修会はテーマが変わっていて「気を養う」というもの。総務部の渡辺浩先生の案内状によると「１月の定例研修会は「漢方」に注目を当てたいと思います。日頃何かと心を痛めることの多いこの学習塾業界です。そこで、主に企業研修で「漢方」の講演をされている松下先生にお越しいただき、漢方における「気」の養い方、使い方についてご講演いただきたいと思います。是非疲れ切った体のエネルギーを再度取り戻すべく、ご参加ください」とある。いささか興味があったので、いそいそと出かけてみた。
出席者は20名弱、若手の講師の先生方の顔も見える。講演の講師は㈱K＆K研究所代表の松下元之氏、赤羽で漢方薬局を経営されており、渡辺さんが懇意にされている方のようである。
講演は手慣れたもので、出席者を巻き込んで、実践参加型の講義でテンポがいい。出席者は健康に不安をかかえておられる方も多く、講師のお話に納得しながら熱心に耳を傾けておられた。
わずか１時間程度の講義で身につくわけでもあるまいが、漢方の戸をちょっとたたいてみた心境であった。たまにはこんな研修も楽しいものである。

渡辺さんをモデルに実践講義を行う松下氏

昼食の後、4月に実施する全国研修大会の打合せを行い散会した。　（文責：谷村）

エリア中部　代表　松本紀行
（長野県・チャレンジ学院）

只今、長野県下は教免法違反問題で揺れております。ある塾が八年前に才教学園という小・中学校を作りました。順調に生徒も集まり、来年度は高等部を作る申請を、県に提出していた矢先のことでした。順風満帆。この世の春を享受していた学校が、一夜にして天国から地獄へ転がり落ちました。県の調査では、教員等のべ67人が無免許で授業を行っていたことが判明し、約五億円が返還対象となったわけです。私も親しくしていた方なので、心配になってお電話をさしあげたところ、どうやらそれどころではない状

況だったので、激励の言付けだけを伝えるに留まりました。理事長が退任し、信学会や銀行の支援を受けてなんとか授業を再開するに至っています。年の暮れに新しく就任した校長さんと総務部長さんが訪ねて来られ、「やっと落ち着いた。これからもよろしく」と。話を聞くと五億円の返還の中から、違反した授業の時間数等を細かく計算し、7,100万円返還することになったようです。気持ちがスッと軽くなったのを覚えています。「ああ、よかったですね。これからも応援しましょう」今まで緊張した様子の総務部長がやっと笑顔を見せました。新理事長が「可及的に速やかに返還する」とし、さらに「授業料を値上げして、保護者に負担を掛ける事は絶対にしない」と明言したことによって、少し鎮静化したようです。親御さんたちに「大丈夫ですよ、大丈夫ですよ」「才教は潰れませんからね」と言い続けて良かったなと思っております。今回の事件を振り返ってみて、問題点は二つあります。一つ目は、コンプライアンス。法令を順守しなかったこと。塾人の盲点かもしれません。二つ目は、県の怠慢。長年発見できなかったことに対して、県は大いに反省しなければならない。私自身も、襟を正さねばならない事件でした。

去る12月7日。県立中学の入試が行われました。長野県下では屋代中学と諏訪清陵中学の二校です。二校併せて160人定員のところ830名が受験し、競争率5.19倍でした。今年度初めての入試となった諏訪清陵中学は80名定員のところ425名が受験し、競争率5.31倍となりました。今まで見たことのない高倍率で、ビックリしております。受験校は約80小学校。1小学校で一人受かれば平均的。2名、3名受かれば大喜びです。こんなにも沢山の生徒が不合格となり、一週間も二週間も泣いて暮らしている生徒さんを見ると、胸が痛くなります。「これじゃあイカン」と職員会議では、全員が猛反省をして、来年はこの涙を一人でも少なくしよう。この悔しさを踏み台にしてがんばるゾ。そんな職員がいじらしく思えたものです。来年は40人合格の宣言が出され、中学受験の専門校舎がつくられることになりました。もう突貫工事です。2月開校を目の前にして、まだ未完成です。でもなんとかなる。なんとかする。いや、必ず出来る！そんな雰囲気が満ち満ちています。新設校は3校。名前は『清陵アカデミー』。四谷大塚さんの小学校部門のノウハウを頂戴し、最難関中学を目指す校舎にすることにしました。1月24日、26日はいよいよ入塾説明会です。たくさん集まってくれるといいなあと祈る心境です。

気候不順な折り、皆様におかれては健康に充分留意して下さい。湯口理事長の元、私塾ネットが益々発展する事を心から祈念致します

エリア近畿　代表　杉山　信良
（大阪府・栄光塾）

２０１４年を迎えて

１月２１日に中学受験も終わり、本日２４日は教材展示会。その合間に関西塾団体連絡会が会場の隣であり、私はエリア近畿代表として参加させていただきました。

今後エリア近畿でイベントをする機会があれば、連絡会の協力を仰いでの開催となります。

さて、冒頭の中学受験、１月１８日の近畿２府４県の統一受験日を前に、新年早々インフルエンザに罹る坊やが居たりもしましたが、今年も無事、全員第一志望校合格で終える事が出来ました。

７日で冬期講習会を終えましたが、三学期が始まってからも、１１日からの三連休はもちろん、連日、朝から最後の追い込みで、なんとか合格圏外の生徒も志望校合格に漕ぎつけ、２０１４年もいいスタートが切れ、二月の私立高校受験に向けて、バトンが繋がったとホッとしております。

自宅から教室まで、通勤に一時間弱掛かりますので、夜型の塾人にとっては、早起きはとても辛く、毎日寝坊に怯えながら、自分を励まして中学受験を突破しましたが、そんな折、千葉の柳田先生のフェイスブックを見てびっくり。

彼は、毎日、帰宅時間が私よりも遅い午前１時とかにも拘らず、中学受験の生徒の応援の為に、毎日、夜も明けぬ早朝から一番乗りで受験会場に駆けつけていました。

柳田先生の母校の入学試験の際には、職員室で先生方が「こんな時間に来ているのは、きっとあいつだろう」と噂されていたというのですから、毎年そんな事をして来たのだな。と改めて頭が下がりました。（入試当日、学校の先生方が朝5時に出勤している事実にもびっくりしましたが…）

電話で話した時「自分たちに出来る事はこれくらいしかありませんから…。まあ自己満足ですけどね。」とおっしゃっていましたが、子どもたちや保護者にとっては、受験会場に着くと、一番に自分の塾の塾長先生が迎えてくれるなんて、本当に心強い事ですよね。

昨秋の広島の研修（私は行けませんでしたが）の後、田中宏道先生が「若い衆から刺激を受けた」と報告がありました。短い言葉の中にも、宏道先生の謙虚さと同時に、閉塞感を感じ、今の自分と似てるのかなと思ったりもしましたし、自分も広島でその場に加わりたかったなと思っていましたが、今回、柳田先生の頑張りに触れ、遠くに居ても、私塾ネットの仲間の奮闘ぶりに多いに刺激を受けました。
それにしても、受験会場が複数の時は、どうしてるんやろ？それを聞くのを忘れましたわ。柳田先生、今度教えてな！おれも大阪市の塾代助成金の事、もっと良く調べとくから。

2013年度　私塾ネットエリア四国研修集会

日時：平成25年12月8日１３：００～　場所：岩国国際観光ホテル（山口県岩国市岩国）

エリア四国　川口順次
（香川県・学びの森育心館）

第1部
生徒のモチベーションをアップさせるために

（序章）

行って参りました、錦帯橋。今回は佐々木小次郎のゆかりの地（吉川英治著作中）である岩国の錦帯橋が間近な会場で、コバルトブルースカイの下での研修となりました。

湯口兼司理事長

まず、開会の挨拶でエリア四国代表寺嶋先生より、センター試験から見る四国の高校生の学力状態、それをもっとのばすための学習環境をどう整えるかのお話。続いて、来賓の芸城学院 城忠道先生から、「研修会に悪い研修会はありません。そこに参加する人の心構え次第で、どの研修会も良い研修会なのです。」そして、「人生も塾ももっと楽しんで、もっと遊びなさい。」とのお言葉を頂きました。素敵な、温かいお言葉でした。続いて理事長 湯口先生から、前日入りして見学した芸城学院の生徒達のお話がありました。

続けて、最上級の「芸城流　お・も・て・な・し」をしていただいた芸城学院西岩国校・玖珂校の代表の熊野章恵先生から、「先生がアクションを起こすと子ども達はちゃんと反応するものだ。」と。つまり、
生徒は先生の鏡なんだということでした。いやぁ～、ここまでで充分研修になってます。イントロでこれでは、今回はいつもに増して中身が濃い研修になりそうな予感。

田中宏道ネットセンター研修部長と後は徳島の近藤誠介先生

（講演）

講師：真弓秀之先生（芸城学院 西岩国校・玖珂校）

まず、なぜ、「生徒のモチベーションをアップさせること」をテーマにしたのか。それは、ある程度成績の良い子どもであっても、「家庭での学習習慣が定着していないという問題」があったからだそうです。　まず最初にやったこと、**①目標を立てる　②やる気を持たせる**　ところが、どんな目標を持てても、やる気があっても、やる気を継続することが出来ない。あげく、言い訳がいくらでも出てくる状態になってしまったそうです。

次に実践したのは、「何が間違えていたのか。」の反省のもとに、まず、目標を立てることの根本から考え直しをしたそうです。それは、**①1.01倍で進もう　②目に見えるようにしてしまおう　③自分を当てにしない　④言葉の威力　⑤続けなきゃダメ**の5つです。

①1.01倍で進もう

あまりに遠い、理想のような目標をたてずに、まず、簡単に出来ることを目標にする。1.01倍も70日間で約2.03倍になります。例えば、1日15分の勉強が30分になるのです。

②目に見えるようにしてしまおう

その日小さな目標を達成できたらカレンダーに印を残して、達成したことが目に見えるようにし、達成感を積み重ねよう。○印を書いたり遊んだり。そうやって、目標達成を繰り返すうちに今まで見えなかった何かを発見出来るかもしれない。それが大事。

③自分を当てにしない

自分で出来る範囲の料から取り組み、ライバルを見つけてみたり。意見交換などをして見られている自分を作る。そして、テストの成果と誠実に向き合う中で自分をごまかさない癖をつける。

④言葉の威力

（言葉の威力を実感する次の実験をしました）

2人ペアになり、相手の良いところを30秒間で紙に書き書き、「相手のいいところ」を1分間相手に向かって言い続けました。言われる人は人は黙ってそれを聞き続けます。もう、お分かりになしますね。「いい言葉」を言われて嫌な気分になる人はいません。そう、これが言葉の威力。

⑤続けなきゃダメ

モチベーション。それは内面からわき起こる達成感の繰り返しで、続けた者にしか分からない味わい深いモノ。そして、それは「わくわく感」そのものであると。だから、続けることが大切。

まず始めること、始めることで５０％は達せされたと同じこと。　”It's a piece of cake.”

第2部
芸城学院予備校の取り組みとそのノウハウ（講演）
講師：加納幹久先生（芸城学院 予備校）

芸城学院西岩国校の見学をはさみ、芸城学院予備校で講演をなりました。で、予備校入ってすぐに目についたのが、加納幹久先生の署名入りで、ボードに貼ってあったこの５つの言葉でした。

「・情熱の天才になれ
・努力の天才になれ
・忍耐の天才になれ　・継続の天才になれ　・未来を創造せよ」高校生に望むことを端的に直筆で書けるなんて格好いいです。

さて、講演では各講習会での取り組みについて、資料に基づいて説明していただきました。不可能なことですがその資料ををここに張りたいです。それ程内容の濃い、詳しい資料でした。そして、終わりに、生徒達に投げかける、**「子ども達も我々も使命を持って生まれてきている」**という言葉を紹介してくださいました。それは、成績がドウとか、目標が持てないとかそんなことを気にしないで、自分の思う自分であることを大切にして欲しいし、だからこそ、「君は生きる価値があり何かしらの使命を持っているんだよ。」と語りかけていくそうです。

第3部
岩国のゆうべ（Mystery　Joh?!）

なんと！芸城学院の創始者 城忠道先生の御自作の曲を聴く会！！城先生の作曲才能のすばらしさに感動すべきなのか、最新ソフトの優秀さに感心すべきなのか…（城先生ゴメンナサイ）。ちなみに、城先生は曲先（メロディーを先に作る）で、歌詞はメロディーラインに合うように作られるそうです。30曲以上も作られているそうですよ。城先生のあとに、地元のフォークバンドの演奏もありとても楽しい遊びの時間を過ごさせていただきました。ピアノ演奏にギター演奏、それに作曲。お歳を召されても様々なことに意欲的にチャレンジされている城忠道先生は、やっぱり我らが「格好いい先輩」です。

懇親会

すばらしいお食事でした。すべてが「和」の料理で、まさに世界遺産に登録されるに値する「日本料理」で、あれほど賑やかに話をされて皆さんがしばらくは黙って食べることに集中されていましたね。でも、少しのアルコールが入れば、本音丸出しのあんな話やこんな話。良いなぁ、この時間。

（終わりに）

今回綿密な計画を立て、準備し、呼んでいただいた芸城学院 西岩国校・玖珂校の熊野章恵先生、スタッフとして活躍していただいた先生方。本当にお世話になりました。どの先生もとても気持ちの良い時間を過ごすことが出来ました。ありがとうございました。また、いつも最後になりますが、遠路関東から参加していただいた役員の皆様、本当にありがとうございました。

▼前列中央に湯口、城、佐藤、寺嶋、近藤の中四国ベテラン先生が陣取り、周りを関東のメンバーを含む中堅組が囲む。さらにその周りには若手の先生方や女性の塾長も目立つ。私塾ネットの頼もしい老若男女の布陣である。この層の厚さがネットの魅力だ

エリア中国　吉長　あけみ
（広島県・吉長塾）

私塾ネット四国研修会in岩国に参加して

私は、10年ぶりに、研修会に出席することにしました。以前お会いした四国の先生方にお会いできることが、とても楽しみでした。

小野先生の司会で、エリア四国代表の寺嶋先生の挨拶、城先生、湯口理事長の挨拶で始まりました。それぞれの立派な先生方のご挨拶を聞きながら、「来て良かった。」と心がわくわくしてきました。

真弓先生の「生徒のモチベーションをアップさせるために・・・」の講演はとても工夫されたもので、聞いているうちに真弓先生のお話に引き込まれました。この工夫と準備にかける情熱から、真弓先生は、生徒に非常に濃い愛情を持った熱血先生に違いないと思いました。

講演は、「学ぶことは知ることであり、努力することが喜びになり、やる気が出て頑張る思いを持続させることが出来、それがまた潜在能力を引き出す。そして達成感を感じ、達成感が言動力になる。モチベーションが内面から沸き起こる。」という内容でした。私も塾に帰ったら、熱い気持ちで生徒に接したいと改めて思いました。

研修会第２部は加納先生の講演でした。場所は芸城学院予備校でした。予備校の教室は広々として勉強をしやすく目が疲れにくい緑色の机が使用され、細かい配慮がされていると思いました。加納先生が「教室には、物がなく集中できる空間を作っています。日本の神社がモデルです。まず教室に結界を張る気持ちで、教師も生徒も教室に入るので、40人の生徒でも静かです。」と言われました。ここの生徒は授業の全てを吸収する構えで椅子に座るので集中できるそうです。また、休みの取り組みや職員の長期休暇や学校対策やスタッフの研修についても教えて下さいました。

反省会の時、加納先生に「城先生と退職された先生方がバンドを組まれて素晴らしい演奏をされたことにびっくりしました。仲がよろしいですね。」とお話をしましたら、「そうですよ。塾に一番大事なのは、スタッフのチームワークですよ。」とおっしゃられました。

その言葉が心に残りました。城先生が「人への感謝」とお話をされたことを思い出しました。私も帰ったら、もっともっとスタッフ同士が話す機会を作ろうと思いました。とても意義ある研修会でした。四国の先生方や芸城学院の先生方にとてもお世話になりました。有難うございました。

エリア九州　代表　林　芳子
（宮崎県・Hayashi塾）

今年は特に寒い日が続いています。その上、インフルエンザが流行し始めたとかで、塾でも、発熱などでの欠席が目立ち始めました。宮崎県の高校受験は、私立が1月29日（一部の学科では30日も）、県立の推薦入試が2月５日、一般入試が3月4日と５日となっています。県立の合格発表が、3月19日と遅いのが、他県と違うと言えるかもしれません。どちらの塾も同じだと思いますが、今が追い込みの真っ最中です。

そんな中で、年末からこのお正月にかけて、気づいたことがあります。生徒たちの会話から聞こえてきたのですが、今年は、概ね、お年玉の総額が少なかったような・・・。　もちろん、家族の事情や親戚の多い少ないなどで、個人差があるのでしょうが、

「僕は、○○円。」

「僕も、○○円。でもね、週末におじさんの所へ行くから、あと少し増えるかな？」

「小学生の頃の方が多かったなあ。」

などという会話が、聞こえました。

もうひとつ、気づいたことがあります。毎年、冬のボーナス時期には、生徒たちは新しい服や靴を買ってもらい、それを身につけて塾に来て、どのお店で買ったなどと話をしていることがあります。そういうときはみんなが嬉しそうで、聞いている私も楽しい気分になるのですが、今年は、そんな日はなかったような気がします。もちろん、新しいのを来てきた子はいましたが、自慢し合ってるような日はありませんでした。

今年は地元の大きな企業で冬のボーナスはなかったとかと、大きな話題になっています。そういえば、年初めの百貨店の初売りの日に、たくさんの人が並んだとかいうニュースが流れていましたが、お昼過ぎに福袋を買いに行った知り合いは、

「ガラガラだったよ！開店の時間だけ、並んでいたんじゃないの？」

と、言っていました。

年度末が近づいているせいか、車を走らせると、道路工事の現場が目立ちます。ショッピングモールの駐車場には、相変わらずたくさんの車が停まっています。ニュースで流れているように、景気は少しずつ回復しているのかも知れません。しかし、塾周辺の飲食店では、どの店も、忘年会や新年会の予約が今までにないくらい少なかったと聞きました。ニュースでは、景気回復のきざしが云々とか言っていますが、人口の少ないこの地方は、まだまだというよりも、過去にないくらい厳しいようです。

そんな中で迎える今年の受験期です。暗いことばかり書きましたが、今年の生徒たちは、クリスマスやお正月でも、うわついたところもなく、地道に頑張っています。良い結果を出さないといけないと、例年よりも真剣に考えているようです。そこが救いかなあ、と、感じているこの頃です。

「あと少し！」・・・寒い中でも、明るい春の気配を感じるこの頃ですが、本当に明るく温かい春になるよう、頑張っていこうと思っています。

大井町から教育を考える会（ＯＫＫ）主催　私立中高相談会レポート

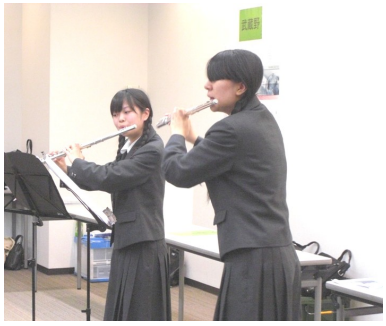
協力：私塾ネット関東　報告:ＯＫＫ事務局長　鈴木正之

１１月３日（日）大井町から教育を考える会「私立中高相談会」が開催されました。

参加私学２１校、駆けつけてくれた（運営を手伝ってくれた）学習塾１２塾。総関係者数７０名でした。

まずは、参加してくださった私立中高と実行委員の学習塾の皆さんに感謝。懇親会に来ていただいた方々に感謝。会員外でお手伝いしていただいた菅原先生、桂馬先生、中村直人先生、ありがとうございます。講演と相談コーナーで大活躍の三谷さんに感謝。映像関係で頑張ってくれた鈴木学さんに感謝。会場となったアワーズイン阪急さんに感謝です。日本音楽のミニコンサートでフルートを演奏してくれた２人の生徒さんに感謝。その他、協力協賛の企業団体にも感謝。この会を開催するに当たり多くの人の協力がありました。私塾ネット関東からも、谷村先生、佐藤先生、仲野先生、渡辺先生も懇親会に来てくれました。東洋大学の川合先生も京北時代から毎年来てくれます。本当にありがたいことです。

相談会は、日本音楽のミニコンサートから始まり、阿部光雄実行委員長（トキワ松学園）の挨拶、木谷朝子理事長の挨拶と続き、三谷潤一氏（声の教育社）の講演の後に開始となる流れです。



来場者数はそんなに多くない相談会ではありますが、「来てよかった」、「やる気になった」との声をいただくとやってよかったなぁと思います。「こんなに良い相談会は無い」と私は思っています。なぜなら私立中高が自分の学校に無理やり勧誘するのではなく、その子にあった学校を探そうとしてくれるからです。

この相談会は多くの方の協力と努力のもとにやっている一種ボランティアの会です。来年以降今年の来場者を上回ることができるように考えていきたいと思います。来場者が増えることが、頑張った先生方協力していただいた方への一番の恩返しだからです。

終了後の懇親会も先生方50名の参加、2次会も２０名の参加となり、この種の懇親会としては異常に多い参加者数に驚きます。初めて参加された何人かの先生が「こんなにアットホームとは思わなかった」とおっしゃっていただき、これもOKKらしさを感じ、うれしい言葉でした。

「子供たちが私立中高の先生方の話を聞いて、自伝の進路について真剣に考えられるようになって欲しい。誰かに言われて勉強するのではなく、自分の意思で頑張ろうという気持ちになって欲しい。自分の一番校を見つけて欲しい。」それが子供たちの成長につながると信じています。正直開催するのはしんどいですが。子供たちのいい顔を見たいので来年も頑張ります。

ＪＪＡ２５周年・塾の日シンポジュームに参加して

エリア関東　長江広紀（英数学院・神奈川）

昨年１０月１４日に開催された、公益社団法人として初の全国学習塾協会主催「ＪＪＡ２５周年・塾の日シンポジウム2013」に、私自身も社団行事に初参加致しました。

「お前のお父さんは塾の先生なのか？」担任教師からクラスメートを前に話題にされた時、「父の仕事は絶対しない、勉強については一切父から教わらない」と決意したのが小学５年生の時。第一部では、文部科学省から土曜日の教育活動推進に、学習塾への期待を寄せて頂いたことが印象的でした。私の地域でも学校の先生から「塾を勧められた」といった事例は枚挙に暇がありません。現在の教員は業務多忙で（妹が小学校教員です）、放課後に補習をする余裕もありません。この日公務で欠席された下村博文大臣が先頭に立って打ち出す施策には、今後とも目が離せません。学校と塾の関係ということで、30年も前のエピソードを出しました…。

各記念表彰の後行われた第２部では、「グローバル化」をテーマに海外生活経験豊富な猪口邦子参議院議員の基調講演。配布されたアンケート結果が示す通り、現場の子供たちの多くは戸惑っています。猪口議員はご自身の経験から「他言語(他文化)を学ぶことで、イマジンする力を養うことができる」と興味深いお話をされました。英語の授業においても、その意義についてしっかりと子供たちに伝えていく責務があると感じました。また、流暢な日本語によるスピーチをされた３人の海外留学生から伺った「自国と日本」について、日本留学を志した目的等は、未来を担う子供たちにも是非聞かせたいと思わせる素晴らしいものでした。

第３部では「東京流おもてなし」をテーマに懇親会。渡辺浩・新関東支部長を中心とした私塾ネッ

ト関東の先生方が、長い準備期間を経て満を持しての活躍ぶり！場所も私塾ネット縁の浅草ビューホテル。来賓への対応や、生演奏のBGM、座席を設けない斬新な形式…、私も一参加者として多くの方々とご縁を結ばせて頂きました（前日も遠方からの参加者を歓待してくださりました）。タケちゃんの芸に、多くの参加者が拍手喝采！（彼は結婚式終わりの女性たちにも芸を披露しているという一幕もありました）第２部の司会も仲野十和田先生が行うなど、私塾ネット抜きでは考えられない１日でした。その後、各々２次会で飲み直し。携わった先生方、本当にお疲れ様でした！

2013年は本当に多くの先生方とご縁を結ばせて頂きました。「ヒロ(キ)先生」「ゆうや?!」という愛称も与えて頂き（父が在ってこそです）本当にお世話になりました。研修や出会いから多くの学びや刺激を受けました。短い期間ではありますが「塾の先生の息子」は現在この仕事を誇りに思えるようになりました。私の地元・神奈川は、大手の進出により競争が激化し神経をすり減らす日々です。「塾長」業務は想像以上に孤独です。抱えている問題を話せる人も身近にはいません。関東や全国の先生方・業界関係者と触れ合う時間は、不思議とその苦悩が癒されました。視野も広がり、リフレッシュして自塾に戻ってこられます。Facebookで多くの先生方のご活躍を目にする度、元気を注入できます。また、ご心配をかけている父の病状ですが、最近家の中ではありますが杖で歩行するまで前進致しました。2014年は吸収するだけでなく、学んだことを一歩ずつ自塾で実践していこうと決意している今日です。

お隣の熟女は、ご来賓の高市早苗衆議院議員、ちょっと緊張気味の筆者。

アルバムで綴る渉外部報告　渉外部長　佐藤勇治

私も本年は八十歳の誕生日(平成26年2月15日)を迎えることとなり、自分の仕事を取りまとめを急がなくてはと強く思っています。

一昨年2012年（平成24年4月5日）、6年掛かりで、人生の集大成の積りで『学習塾百年の歴史－塾団体五十年史－』（1170頁、上製本、写真900枚収録）を発刊致しました。執筆者160名、編集委員24名、約1500万円の費用で、2000部出版しました。

本書発刊後、学習塾業界はもとより、朝日新聞社、日本経済新聞社、出版社（集英社・小説すばる編集部・その他）、ライターの方々、大学院生や大学生の卒論に、また大学教授、全国の国公立・大学の図書館などからの頒布依頼、取材の申込みなどを頂き驚いています。

また、昨年2013年（平成25年9月22日）に、JR「市ヶ谷駅」のアルカディア（私塾会館）において、平成25年(2013)度『私塾・私学・企業　教育ネット要覧』≪第13集≫に下村博文部科学大臣に、本書の巻頭言を寄稿していただいたのを機会に、『教育ネット要覧』出版記念祝賀会、報告会、懇親会を開催いたしました。その折、下村大臣には、懇親会で就任されたばかりの東京オリンピック・パラリンピック大臣就任と教育再生会議のお話と同時に出席者全員と記念写真を撮らせて頂きました。

今回は、その時のアルバムを中心に構成し、渉外部報告といたしました。

平成２５年９月20日（金）。９月22日（日）の「教育ネット要覧」出版記念祝賀会の打ち合わせのため、文部科学大臣室を訪ねる。下村文部科学大臣（右）と佐藤勇治教育ネット要覧編集長。

９月20日(金)、文部科学大臣室を訪ねたメンバー。前列左より右へ。木谷朝子先生、菅谷友豊香先生、下村博文文部科学大臣,佐藤勇治。後列左より右へ本田恵三先生、松田邦道先生、坂田義勝先生、鈴木正之先生、渡辺美知太郎先生。

平成25年９月22日(日)下村博文文部科学大臣は、懇親会の前半で、東京オリンピック・パラリンピック担当大臣としての抱負、教育再生会議の提言内容など有益なお話をして下さいました。

平成25年９月22日(日)アルカディア市ヶ谷（私学会館）での「私塾・私学・企業教育ネット要覧」2013年出版記念祝賀・報告会・懇親会で、下村博文文部科学大臣を中心に、参加者全員で記念写真を撮る。

私塾ねっと誌上句会　第十六回

蕗の薹 季節はまだと雪かぶる　岸部雄一（北海道）
六十五 生きてきた日の 福寿草
北海道根室在住の岸部さん、俳句の季節感が難しいとのご指摘。なるほどごもっとも、蕗の薹が顔を出すのは何月？

枯枝も花に見せたり白き富士　梶原賢治（埼玉）
大寒も 涼しき顔の 梅の花
今年の大寒は1月20日、梅はこの時期になると開花の準備が始まる。人間様が首をすくめる大寒は、彼らにとっては春到来か。

寒日和 家族は元気 福笑い　石田治正（東京）
初詣 羽根突き少女 花が咲く
石田さんのお住いは寅さんでおなじみの葛飾柴又。帝釈天の、人出で賑わう参道と境内を彷彿させる揚句の世界。

教え子の結婚写真の賀状来る　中村直人（神奈川）
初大師 善男善女の 笑顔あり
中村さんの塾は川崎大師の参道にある。初詣の客が皆、善男善女の笑顔と見えたのは吉兆、今年はいいことがありそうだ。

新年や 灘の新酒で 雪見酒　長江勝秋（神奈川）
丑年や 在らば九十五の 父の干支
リハビリ中の長江さん、灘の新酒で雪見酒は、斗酒なお辞せずであった彼の願望。小生がいつでもお相手いたします。

立春や 配達人の 声高し　十亀幸雄（愛媛）
アリガトウと 机に書きて 卒業す
昔の悪ガキなら、ナイフで机を刻みかねないが、現代の子どもたちは総じて常識人のようだ。ほほえましい二月の風景。

毛繕う 猫丸々と 寒に入り　谷村志厚（千葉）
連れ添いて 巡る余生や 七福神
一月五日、初めて七福神巡りを体験した。同行の仲間はいずれも定年退職前後の者ばかり、余生幸あれと願うばかりだ。

閑話休題

編集長　谷村志厚

ついこの間新年を迎え、冬期講習を終えたばかりと思っていたら、すでに１年の12分の１が経過しようとしている。首都圏では私立高校の入試試験も山場を越えた。数日もすれば中学受験も終盤を迎えることになる。月日の経つのは速いとは人生晩年にいたっての真理だが、ことのほかそれを実感する昨今である。

1月25日(土)この日は英語検定の土曜日実施日であった。宮城県石巻の出前寺子屋でも英検を実施するので、検定問題を携えて東北新幹線に乗り込み一路仙台へ向かった。仙台で東北大の大学院生米澤さんに合流する。彼は出前寺子屋に参加しはじめて１年半を経過するのだが、この３月には大学院修士課程を卒業し故郷盛岡に帰るとのこと。博士課程に進むのを断念したようだ、４月には新しい人生が始まることであろう。今回が最後の活動となると思えば感慨新たである。

現在石巻には、仙台から三陸自動車道路を経て入るルートが一般的である。距離にして50余キロ、70分の行程だ。本来はJR仙石線が仙台･石巻のルートなのだが、松島海岸から東松島矢本間が不通のままで、復旧の目途も立っていない。

三陸自動車道の車窓風景も、この２年で変化が見られる。パーキングエリアが新設され、往復４車線化の工事が急ピッチで進んでいる。石巻の郊外に入ると、蛇田地区復興住宅の大規模造成地が広がっている。たしかにそこに復興への槌音を聞くことができる。だが、寺子屋を開設する仮設開成団地に一歩足を踏み入れると、２年半前と何ら変わらぬ風景が、寒風の中に広がっているのだ。

ところで今回の英検には中学２年生６名が３級を、１年生１名が４級を受検することになっている。彼ら７名のうち３名はいまだ仮設住宅、あるいは借上げ被災者住宅に住まっている。ここにも震災復興半ばの現実があるのだ。

さて、震災復興学習支援活動「石巻出前寺子屋」のスクーリングがついに６０回目を迎えた。月に２回のペースで実施している活動なので、2011年8月16日の第１回から数えれば30ヶ月、２年と半年を経過したことになる。当初はせいぜい1年程度のつもりであったが、まさかこれほどの長丁場になるとは。だが、過ぎ去ってしまえば短くも思える９００日である。

３月までは現状の活動（私塾ネット後援、日本キリスト教協議会資金支援）を継続する。４月以降は高校受験生（現中学２年）６名を核とした、月１回程度の学習指導のスクーリングを継続する計画である。継続できるのは立派ですねと誉めていただくことがあるが、否、情が絡んでなかなか抜けられないというのが事実。彼らは小学５年の３学期に被災し３年が経過、そして４年目の来年が高校進学である。彼らの高校進学に関わりたいというのが情というものであろう。ことに妻であり寺子屋の代表である谷村和枝の強い思いである。

最後に、ここで誌面を借りて、これまで寺子屋活動にご理解と応援をいただいた、私塾ネットの有志の皆さんにお礼を申し上げます。

私塾ネットセンター　事務局通信

事務局長　仲野十和田(ナカジュク)

平成１４年１月１７日（金）１０～１３時、北とぴあ（東京都北区）にて、エリア関東主催のＢＭＷ（Brush up Myself and Win　「自分磨き」）が、行われました。この回の特徴は、職員が中心の会であることと、業種を選ばないことです。ただし、今回は最終回でしたので、経営者の参加もＯＫでした。テーマは「感謝」。日頃どのように感謝を伝えているかを、具現化しなければならないので、発表者は大変苦労したようです。発表団体は以下の通りです。

①SRJ（賛助会員）　②　森塾　③生命の森リゾート　④　ナカジュク（会員塾）⑤　開倫塾（会員塾）⑥　林歯科クリニック　⑦　中村学院（会員塾）⑧　成基学園

半分ほどの時間は、グループディスカッションに使われたので、他業種の方の話なども聞けてとても有意義な時間を過ごすことができました。「国を良くする」ということを考えれば、教育レベルを上げることは不可欠です。だから、良い教育はシェアをして、実践していく必要があると思います。今回の発表者の平均年齢は、３０代半ばくらいだと思います（中村直人先生を除くと　笑）。テーマがテーマなだけに、若い方々の純粋な思いが伝わってきて、思わず胸が熱くなってきました。そして、自分自身も「感謝」の気持ちを表すことが少ないことにも気付かされました。

今年の全国研修大会はミャンマー在住の医師、吉岡秀人さんをお招きします。初めて講演をお聴きした時、実はその日はもう一方の講演を聴くのが目的だったのですが、３人中最後の講演者だった吉岡氏の話に心を奪われました。数日しかないとわかっている『命』に対しても、最後が楽になって逝けるなら…、最後だけでもこの世に楽しい思いを残せて逝けるなら…という思いで、メスを握られている素晴らしい方です。スケジュールの関係で、１週間早い開催となりましたが、期待してお越しください。

３月１６日（日）には、毎年１月に行われていた、エリア関東主催のファミリーパーティーがあります。詳細が決まり次第ＨＰでご案内いたしますが、ご都合の付く方は、是非ご参加ください。

フォート・ほっとコラム

澪標　＜通行する舟に通りやすい深い水脈を知らせるために立てた杭＞

河口湖から見た富士です。

去年の職員旅行は富士五湖を巡る旅でした。６月の梅雨の時期でしたが、計画した後に世界遺産に登録され、タイミング的にはとても良い旅となりました。

この時期だけに初日は雨で山中湖からの富士はすそ野の広さを見て案内書の写真で想像することとなりました。その日の宿は河口湖の湖畔。宴会を楽しんだ後、明日の天気を気にしながら床に就きました。早朝、写真好きの職員の起き出す音に目をさまし、窓を除くと薄暗い河口湖の向こうにはなんとうっすら富士の稜線が見えるではありませんか。早速カメラ片手に湖畔へと急ぎました。夜明けと雲が取れるのをしばらく待っていますと、頂から薄赤く朝焼けに染まる富士が美しいその姿を見せ始めました。時間を忘れて夢中で写真を撮り続け、気が付くともうすっかり夜が明けていて、河口湖は静かに雄大な富士を写していました。今日はいい天気！楽しい旅になりそうだ。

以前、職員旅行で訪れた長野県の美ケ原に「澪標の鐘」というのがありました。霧や吹雪で方向のわからなくなった人に鐘を鳴らして山小屋の位置を知らせるものでした。

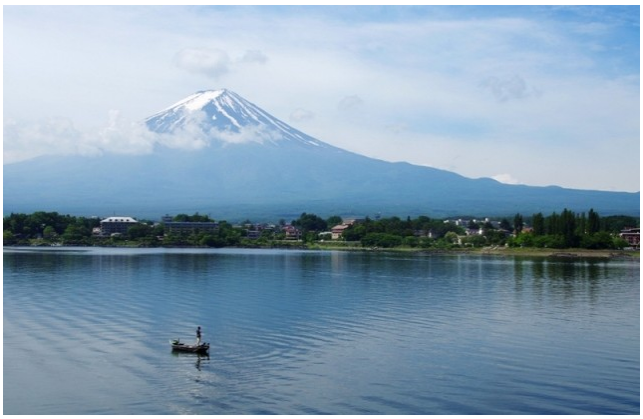
塾の仕事においても時として方向を見失い、どうすればいいのか迷ってしまうことがありますが、こんなとき道標となってきたのが私塾ネットの広報やその仲間で行われてきた研修会でした。

それにしても「みおつくし」とはなんと心地よい響きの言葉でしょう。

それはきっとこの言葉の響きが「身を尽くす」とか「見よ！美し」を感じさせるからではないでしょうか。「他人（ひと）のために身を尽くす」「生徒のために身を尽くす」こうした献身的な行為には共感を覚え、「花を見て美しい」、「富士を見て美しい」「人の心を見て美しい」と感じる心にも心地よさを感じます。

こんな思いがこの「澪標」の言葉に秘められている気がし、心地よさを感じるのではないでしょうか。

澪標　＜身を尽くして生徒の将来の道をつけてやること＞かな？



（文＆写真：城忠道・エリア中国・芸城学院）

賛助会員一覧（順不同）

関東国際高等学校　村山ｻﾝﾄﾞﾗｰ先生
東京都渋谷区本町3-2-2　TEL03-3376-2244

江戸川学園取手中学高等学校　竹澤　賢司先生
茨城県取手市西1-37-1　TEL0297-74-8771

十文字中学高等学校　夘木　幸男先生
東京都豊島区北大塚1-10-33　TEL03-3918-0511

東洋高等学校　丸茂　隆　先生
東京都千代田区三崎町1-4-16　TEL03-3291-3824

桜丘中学高等学校　品田　健　先生
東京都北区滝野川1-51-12　TEL03-3910-6161

聖徳大学附属中学高等学校　川並　芳純先生
千葉県松戸市秋山600　TEL047-392-8111

麹町学園女子中高等学校　大野　博人先生
東京都千代田区麹町3-8　TEL03-3263-3014

春日部共栄中学高等学校　宇野　禎弘先生
埼玉県春日部市上大増新田213　TEL048-737-7611

大成高等学校　岡田　政雄先生
東京都三鷹市上連雀6-7-5　TEL0422-43-3196

東京学園高等学校　須藤　勉　先生
東京都目黒区下目黒6-12-25　TEL03-3711-6641

東京立正中学高等学校　藤井　教戒先生
東京都杉並区堀ノ内2-41-15　TEL03-3312-1111

八雲学園中学高等学校　横山　孝治先生
東京都目黒区八雲　2-14-1　TEL03-3717-1196

関東第一高等学校　副田　康孝先生
東京都江戸川区松島2-10-11　TEL03-3653-1541

武蔵野中学高等学校　鏑木　文夫先生
東京都北区西ヶ原4-56-20　TEL03-3910-0151

和洋国府台女子中学高等学校　西山　紀子先生
千葉県市川市国分4-20-1　TEL047-371-1120

新渡戸文化中学高等学校　藤井三恵子先生
東京都中野区本町6-38-1　TEL03-3381-0196

文京学院大学女子中学高等学校　嶋田　栄司先生
東京都文京区本駒込6-18-3　TEL03-3946-5301

東洋大学付属京北学園　野中　政廣先生
東京都北区赤羽台1-7-12　TEL03-3941-6253

大森学園高等学校　矢部　一紀先生
東京都大田区大森西3-2-12　TEL03-3762-7336

東京成徳大学中学高等学校　増澤　文徳先生
東京都北区豊島8-26-9　TEL03-3911-2786

日本工業大学駒場中学高等学校　河村　文夫先生
東京都目黒区駒場1-35-32　TEL03-3467-2130

青稜中学高等学校　笠松　芳幸先生
東京都品川区二葉1-6-6　TEL03-3782-1502

東京女子学園　実吉　幹夫先生
東京都港区芝4-1-30　TEL03-3451-6523

駒込中学高等学校　河合　孝允先生
東京都文京区千駄木5-6-25　TEL03-3828-4141

愛国中学高等学校　高橋　英夫先生
東京都江戸川区西小岩5-7-1　TEL03-3658-4111

日本橋女学館中学高等学校　園田　義宣先生
東京都中央区日本橋馬喰町2-7-6　TEL03-3662-2507

安田学園中学高等学校　福谷　隆芳先生
東京都墨田区横綱2-2-25　TEL03-3624-2666

科学技術学園高等学校　船津　和良先生
東京都世田谷区成城1-11-1　TEL03-5494-7711

日本音楽高等学校　伊庭　崇　先生
東京都品川区豊町2-16-12　TEL03-3786-1711

立正中学高等学校　今田　正利先生
東京都品川区大崎4-2-16　TEL03-3492-4416

上野学園中学高等学校　高橋公美子先生
東京都台東区東上野4-24-12　TEL03-3842-1021

二松学舎大学付属高等学校　舘野　宏　先生
東京都千代田区九段南2-1-32　TEL03-3261-9288

村田女子中学高等学校　二渡　道雄先生
東京都文京区本駒込2-29-1　TEL03-5940-4187

自由学園（中等部・高等部）　更科　幸一先生
東京都東久留米市学園町1-8-15　TEL042-422-3111

帝京中学高等学校　大谷　幸男先生
東京都板橋区稲荷台27-1　TEL03-3963-4711

京華学園　今野　巌　先生
東京都文京区白山5-6-6　TEL03-3941-6493

千代田女学園　長尾　和雄先生
東京都千代田区四番町11　TEL03-3263-6551

日出中学高等学校　大江　律夫先生
東京都目黒区目黒1-6-15　TEL03-3492-3388

目黒学院中学高等学校　阿部　幸彦先生
東京都目黒区中目黒1-1-50　TEL03-3711-6556

共栄学園中学高等学校　松宮　博　先生
東京都葛飾区お花茶屋2-6-1　TEL03-3601-7136

東京家政学院中学・高等学校　滝沢　保一先生
東京都千代田区三番町22　TEL03-5245-6534

東京女子学院中学・高等学校　宗内　信二先生
東京都練馬区関町北4-16-11　TEL03-5903-9559

(株)創開コミュニティー　小林　和光様
千葉県柏市柏2-7-22-202　TEL04-7164-6511

ドラゴンフィールド㈱　山田　博史様
千代田区神田錦町3-23錦町ビル8　TEL03-5282-3174

㈱パワーコンサル　大島　義則様
渋谷区渋谷1-7-7 青山通りビル12Ｆ　TEL03-5928-1686

㈱私塾界　山田未知之様
豊島区東池袋1-39-1三善ビル　TEL03-3987-0838

㈱ＳＲＪ　板橋　玲　様
港区芝公園2-4-1柴パークB館102　TEL03-5425-6534

デザインオフィススズキ　鈴木　学　様
千葉県柏市柏687-6　TEL04-7164-8276

(株)ぱど　田中　和博様
品川区大崎2-13-17 目黒東急ビル　TEL03-5155-8122

(株)エドベック　千葉　貴広様
横浜市中区山下町25-15 ﾌｭｰﾁｬｰ山下　TEL045-226-5494

(株)学研ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾅﾙ　伊藤　龍男様
品川区西五反田2-11-8　9F　TEL03-6431-1337

(株)ｱﾘｽ・ｲﾝｽﾃｨﾃｭｰﾄ　中嶋三十浬様
埼玉県富士見市関沢2-14-8 ｻﾝｾﾞｰﾑ101　TEL049-293-8056